

令和元年度 いばらき農業アカデミー「グラジオラスの抑制栽培と連作障害」

10月28日（月）に園芸研究所において、いばらき農業アカデミー「グラジオラスの抑制栽培と連作障害」を開催しました。当日はグラジオラス生産者、種苗会社、農協及び県関係機関の20名の出席があり、平成30年度から令和元年度に取り組んだ試験結果を紹介し、意見交換を行いました。出席者から多くの意見が寄せられ、今後のグラジオラスの試験研究と普及現場における課題解決に向けた有意義な検討会になりました。

1 室内検討

グラジオラスの抑制栽培における品種特性と長日処理技術及び、連作障害について、研究成果や進捗状況を紹介しました。抑制栽培における品種特性の試験では、8月上旬の定植で、開花率が高く、十分な切り花長や小花数を確保できる品種を選定しました。抑制栽培における長日処理技術の試験では、到花日数は増加するものの、切り花長や小花数等の切り花品質が向上することが確認されました。また、連作障害の試験では、土壌消毒や緑肥によって連作障害が改善され、切り花品質や開花率が向上することが認められました。

2 圃場検討

品種特性、長日処理技術及び連作障害の試験圃場を見ながら、各試験区の生育状況を検討しました。

3 総合討議

抑制栽培における品種特性については、生産者から品種の栽培情報があり、所内試験の結果とともに共有することが出来ました。また、連作障害については、回避技術が確立すれば、グラジオラスの栽培圃場を固定化することができ、長日処理、灌水設備、防風ネット等の設備投資を行いやすくなるとの意見が出され、試験研究の継続に期待する声が聴かれました。

今回の現地検討会では、さらに多くの品種の特性把握、連作障害の経年変化、土壌水分が生育に与える影響についても試験して欲しい等の要望も寄せられました。今後も園芸研究所では、関係機関と連携を図り、産地や生産者の期待に応えられる課題解決と開発技術の普及を目指します。



室内検討



圃場検討